

中国語新語にみる日本語の影響 (2)

— 「～族」新語を中心に —

Japanese influence in Chinese neologism (2)

— with a focus on new words of "～group" —

田 村 立 波

【要 旨】

本稿では、2010～11年に新たに確認された「～族」新語を『中国語言生活状況報告』(Language Situation in China) 2011、2012年版より抽出して考察を行う。中国語における「～族」という造語は、日本語の影響を受けてできたものと考えられる。「浮遊族」のように日本語から直接導入され、中国社会にも存在する同様のグループを表す新語も散見される。このような「～族」新語の形態的・意味的特徴について共時的手法を用いて究明する。

この時期に誕生した「～族」新語は、形態上においては接尾辞の「族」を除き2音節語が最も多く見られ、中国語の語構成の特徴に合致している。また、漢字の同音異義の特性を多用し、新たに現れた特定の階層の人々を皮肉または自嘲の意味合いを込めて表現するといった音義上の特徴がある。そのほかに、東日本大震災に関連して作られた「退塩族」のような新語も確認されたことから、中国語の変容は日本の言語社会に連動して発生する一側面が覗える。

【キーワード】

新語 造語成分 音節構造 同音異義

【Abstract】

Many Chinese new words of "～group" as a suffix have been confirmed in recent years. This is considered as an influence of Japanese. A new word such as "fuyouzu" has been introduced in Chinese from Japanese. New words that represent the same group which exists in the Chinese society can also be seen. In this paper, I would extract some new words of "～group" which were newly confirmed from 2010 to 2011 by the [Language Situation in China] 2011-2012 edition. I would examine the morphological and semantic features using a synchronic approach.

The morphological feature is that most new words of "～group" which were created in

this period have two syllables without the character "group" as a suffix. It is consistent with the word structure feature in Chinese. In addition, the feature of meaning of each Kanji is that the homonym of Chinese characters is used extensively and it expresses people who have newly appeared in specific hierarchy with great implications of irony or self-deprecation. Besides that, the new word such as "tuiyanzu", which was created in connection with the Great East Japan Earthquake, has also been confirmed. Therefore, it seems that the transformation of Chinese is an aspect that occurs by connecting with the Japanese language society.

【Keywords】

New words constituents of compound word syllable structure
homonym

I はじめに

「中国語新語にみる日本語の影響 (1)」ⁱ (本稿では、以下「前回調査」という) においては、2006年から2009年にかけて誕生した「～族」を用いた新語に着目し、共時的視点から新語の語構成や意味の特徴およびそれが反映する世相を考察した。本稿では、前回調査に引き続き、手法も同調査を踏襲して、2010～11年に新たに確認された「～族」新語を『中国語言生活状況報告』2011、2012年版ⁱⁱより抽出して考察を行う。

II 「～族」新語の語彙数と品詞構造について

1. 年次「～族」新語の分布

2010年、2011年に誕生した新語の語彙数および「～族」新語の占める割合は次のとおりである。

表 1 年次新語分布表

年	新語語彙数	～族語彙数	新語に占める割合
2010	500	39	7.8%
2011	593	30	5.1%
2年間合計	1093語	69語	平均6.3%

出所：『中国語言生活状況報告』2011、2012年版を基に筆者が作成

新語の語彙数は2006年の調査以来、年々増加の傾向にあるのだが、一方で「～族」新語は2009年に確認された46語（新語語彙数の11.6%を占める）をピークに減少している。2010年には39語、2011年には30語数えられ、それぞれの年次新語語彙数の一割にも満たない。

2. 「～族」新語の音節構造

「～族」新語の音節を調査した結果をまとめると、以下のようになる。

- ・ 2 音節：8 語 11.5% 鼠族 草族 錨族…
- ・ 3 音節：58語 84% 張三族 滯婚族 花草族…
- ・ 4 音節：1 語 1.4% BMW族
- ・ 5 音節：2 語 2.9% 月光退休族 未富先奢族

この中で3音節語が全体数の約8割を占め最も多く確認されている。一方で4音節以上からなる多音節語はごくわずかである。これは前回調査と同様の結果が得られた。また、2音節語が8例と増加してきたのは2010～11年の「～族」新語の音節上の特徴の一つと言えよう。この点については更に後述することとする。

3. 「～族」新語の語構成

「～族」新語の語幹を構成する品詞の構造は次のとおりである。

表2 造語成分品詞構造表

構 造		数	割合 (%)	例
単 純 型	名詞	18	26	張三族、鼠族、花草族
	形容詞	1	1.4	孤族
	動詞	3	4.3	混族、打烊族、跑腿族
	畳語	3	4.3	傍傍族、囤囤族、装装族
	アルファベット	1	1.4	BMW族
複 合 型	修飾構造	10	14.5	試考族、快炒族、閃辞族
	主述構造	3	4.3	跳早族、自給族、財盲族
	動目構造	26	37.7	背黒族、偷供族、恐検族
	連動構造	4	5.8	拼炒族、未富先奢族、月光退休族

出所：『中国語言生活状況報告』2011、2012年版を基に筆者が作成

上記の表で示されているように、単純型では、名詞、形容詞、動詞、畳語、アルファベットによる構造が確認され、そのうち、名詞構造の新語が最も多く、18例確認された。複合型は、修飾、主

述、動目、連動構造に分類することができる。最も多いのは動目構造による新語で、26例挙げられる。それに次いで多く確認されたのは修飾構造による新語で、25例ある。合計で「～族」新語の半数を超えることになり、新語造成において主要な役割を果たしているのが判る。

Ⅲ 「～族」新語の意味について

以下に挙げる「～族」新語の意味は、『中国語言生活状況報告』2011、2012年版をもとに、「百度百科」または「互動百科」の解釈を参考に筆者が翻訳・説明を加えたものである。また、「～族」新語の日本語訳をも試みる。日本語訳を考える際に、できる限りその訳語から直結的に意味把握できるように工夫を凝らしたい。

1. 2010年の「～族」新語 39語

1. 1 張三族——熊公八公族

結婚して、子どもがおり、収入は安定しているが高くない、出世を求めず平凡で規則正しく暮らし、危機的な状況が起きたら二進も三進もいかない都市部住民のことをいう。

2009年から放送されたテレビドラマ「老爸快跑」（おやじ早く走れ）の主人公である「張三」になぞえられて、現代社会における激しい競争に疲弊して「平凡」を甘受する人を表現する。

中国語では、不特定多数の人物をさす語として、「張三」、「李四」、「王五」のように、中国で最も多い苗字である「張・李・王」に数字をつけて表現する。張氏の三男、李氏の四男、王氏の五男という意味で、ありふれた一般人の代名詞となっている。

1. 2 跑腿族——雑用族

有償で郵便物の出し受けや食事の配送などの雑用を請け負って行う人のことをいう。とりわけ大学などの教育機関で、裕福な学生の代わりに雑用をしてお小遣いを稼ぐいわゆる学生「便利屋」をいう。キャンパスにまで広がりつつある貧富の格差に、何事をも億劫がる「怠け者」学生の存在を反映する新語である。「跑腿」は「雑用に追われて忙しく働く」意を表す。

1. 3 傍傍族——パラサイト族

こつこつと地道な努力を積み重ねるよりも、他人の力を頼りに「近道」で個人の目標を実現させようとする人をいう。「傍」は「よりかかる、頼る」意を表す。

中国青年報社会調査センターによれば、調査を受けた56.9%の人は身近に「傍傍族」が存在すると明言したということである。

1. 4 柜族——コンテナ族

経済的事情により普通の住宅が確保できず、コンテナを住まいにする人をさしている。主に

出稼ぎ労働者、経済的に困窮している市民や大学卒業生が利用する。

2010年の初めに、複数のメディアで取り上げられたことにより、「コンテナ小屋族」の存在が幅広く注目されるようになった。こういったコンテナは住宅として政府に認められていないため、辺鄙な都市部周辺や目立たない高架道路の下に置かれることが多い。

「柜」は「たんす、戸棚」の意味である。コンテナは商業用語では「集装箱」だが、一般に「貨柜」とも言う。しかし、「柜」だけで「コンテナ」を表すにはやや強引である。そうした使い方には言語上の理由がある。実は「柜」の発音は「貴族」の「貴」とまったく同じである。欧米ではコンテナを改装したファッショナブルな建築は、いわゆる「貴族の趣味」として注目されるが、中国ではそれを専ら住まいとする生活困窮者のことを「コンテナ貴族」のように自嘲気味に表現するのである。同音異義を利用した苦渋の新語である。

1. 5 零帕族——ノンストレス族

仕事や生活における様々なストレスをうまく解消し、楽観的にあらゆることを楽しんでいく前向きな人をさしている。「零」は「無し」、「帕」は気圧の単位を表す。「零帕」は直訳すれば「ゼロ気圧」という意味になる。

「零帕族」は単なる現実からの逃避なのではないかと疑問視する声もある。しかし、これはストレスが増大する社会において新たな生き方を示唆するものであるとも言えよう。

1. 6 有備族——備えあり族

自然災害など突発的に起きた事態に対応するための品物を備蓄し、知識を学習して身につける人をいう。

1. 7 海囤族——イルカ族

物価上昇が予想され、上昇開始前に大量に品物を買ひ溜める人。「海」は「大量に集まる」または程度の甚だしいことを形容する修飾語で、「囤囤」は「溜める」意味である。

1. 8 頼班族——会社長居族

退勤時間になっても帰宅せず勤務先に留まる人のこと。とりわけ北京や上海などの大都会では「頼班族」が増える傾向にある。背景には三つのタイプがある。一つ目は孤独型。このタイプには一人暮らしの若者が多い。二つ目はプレッシャー型。仕事に追われて残業せざるを得ないタイプ。三つ目は何らかの理由ですぐに帰宅しないタイプ。ラッシュアワーを避けたい、または家庭的事情により帰宅しようとししない、など種々の理由がある。2006年の新語に、厳しい社会からの現実逃避をする「頼校族」がある。「頼」の意味は共通して一か所の場所に留まり動こうとしないことを表す。

1. 9 蝸婚族——離婚同居族

不動産事情により、離婚した後も同居生活を続ける、主に20世紀80年代生まれの年齢層の人をいう。

「蝸」は日本語の意味と同じく「カタツムリ」のことである。中国語では、「蝸居」という熟語があって、もともとは「狭い住宅」または謙遜して「拙宅」という意味に使われているのだが、近年になって「住宅をシェアリングする」という新たな意味合いが派生している。その意味から転じて、離婚後も従来通り同じ住まいに居住する人のことを「蝸婚族」と言うようになった。中国婦女連合会による2009年の調査では、80年代生まれの離婚率は約30%で、他の年齢層と比べれば若干高いとのことである。不動産価格の高騰と重なりもたらされた新たな社会現象と言えよう。

1. 10 跳早族——ノミ族

頻繁に転職する大卒者のことをいう。「2010年就職青書」によれば、2009年に大卒した者が半年で離職した割合は38%にも及んでいる。仕事がつらい、賃金が低い、興味がわからない、力を発揮できないなどのいずれかの理由で頻繁に職場を変える新卒者のことを「跳早族」という新語で表すようになった。

「跳」は「跳槽」（転職の意）の略語で、「早」は「早期」の意味である。また、「跳早」は「跳蚤」（蚤の意）と同音異義であることを利用して、「ノミがピョンピョンと跳ねるように職場を転々と変える」ことをコミカルに表現する。

1. 11 試考族——試験試し族

公務員試験や入社テストなど様々なテストを試しに受けてみる人のことをいう。とりわけ希望しないにもかかわらず力試しのためにテストを受ける学生のことをさしている。

1. 12 鼠族——鼠族

都会の地下室を間借りして生活する低所得階層のことをいう。「鼠族」を誕生させた主な要因は都会における農村からの出稼ぎ労働者の大量流入と不動産価格の高騰である。北京、上海などの大都会において、2009年の不動産価格は約16%上昇したとの調査結果がある。2009年の新語である「蟻族」もそうした状況を背景に誕生したのである。

1. 13 囤囤族——屯屯族

基本的に1.7の「海囤族」と同様の集団。両者の違いは買い溜めの規模にある。大量購入という「海囤族」に対し、「囤囤族」は日常用品や食料品を小規模で買い溜める一般家庭のことをさしている。

1. 14 海豚族——イルカ族

「海囤族」と同様の人をさす。「豚」と「囤」（大量に買い溜める）は同音異義語であるため、「海囤」は「海豚」（イルカ）に準えられた「奥ゆかしい」新語となっている。

1. 15 刹那族——刹那族

短い時間でも有効利用して、ネットサーフィンやショッピングをしたり音楽を聞いたりする人。「刹那」は仏教用語で、そこから「刹那主義者」という用語が派生し、「過去や将来を考え

ず、ただ、この瞬間を充実すれば足りるとする考え方」(広辞苑)だが、「刹那族」にはこのような宗教的な意味合いはなく、ファッショナブルな暮らしをしている人のことをいう。

1. 16 売折族——割引券売買族

割安の価格で大量に購入した割引券やチケットなどを小売で販売して、その差額を稼ぐ人。「折」は「値引きをする、割り引く」という意味である。

1. 17 敲章族——スタンプ蒐集族

上海万博で各国のパビリオンを回りスタンプ蒐集に熱中する人。とりわけスタンプ蒐集が目的でパビリオンを訪れる人のことをさしている。48頁あるスタンプラリーブックは普通の旅券に似ていることから「万博旅券」と呼ばれ人気を博していた。

1. 18 漢堡族——ハンバーガー族

名実伴わない、実践的能力がない人。見かけは美味しそうだが栄養価値の少ないハンバーガーに準えられた表現である。その多くは頻繁に転職する、自己評価は高いが能力の低い人である。

1. 19 淘課族——ネット受講族

世界トップクラスの大学によるeラーニング講義を常にネットで受信して視聴する学生。「淘」は「選りすぐる、選り好みする」意で、「授業をサボる」という意味の「逃」と同音であるため、「淘課」は在籍する大学の授業をサボってかわりに世界名門校の講義を受けるといった意味合いがある。無料で視聴できるエール大学、ハーバード大学、マサチューセッツ大学による最先端の講義は、中国の大学において多大な支持を得ている。

1. 20 草族——草族

大半の給料を費やしネットショッピングで気に入りの商品をどんどん入手する人。「草」は気に入る商品への欲望のたとえである。気に入る商品があれば、「長草」(草が生える)とたとえる。つまり「欲望が芽生える」という意味である。その商品を入手したら「拔草」(草を抜く)と表現し、「願望が叶えられた」ということになる。

1. 21 滞婚族——結婚見合わせ族

結婚したら「集団戸籍」から外されたり、生まれてくる子どもが入籍できなかったりするような戸籍の問題により、結婚を躊躇う人。メディアで最初に使用が確認されたのは広州である。

1. 22 快炒族——薄利多売族

商品の売買を頻繁に繰り返すことにより利益を上げる人。「快」は「早く、頻繁に」、「炒」は「投機的売買をする」という意味である。「薄利多売」が「快炒族」の原則である。

1. 23 密碼族——暗号愛好族

趣味で暗号を作成または解読するアマチュア。そうした暗号愛好家がネットワークを形成し、様々なオリジナル暗号を作成したり、暗号解読コンテストを主催したりする。中国のネット会社「Baidu」(百度)が設けた「Baidu暗号バー」により主催される古典暗号コンテストはその

分野において最も評価が高いものとなっている。

1. 24 網課族——ネット受講族

「淘課族」と同様の人。「網」は「インターネット」を意味する「網絡」の略である。

1. 25 半漂族——Iターン族

生まれ故郷を離れ別の地方で学校教育を受け、またそこで就職して定住する人。類似語に日本語による和製語の「Iターン族」があるが、「都会の出身者が地方で就職して定住すること」（広辞苑）のように、「都会」から「地方」へといった限定的な意味合いでは、中国語の「半漂族」と異なる。

1. 26 啃嫩族——子ども依存族

実際の状況を顧みず、就職したばかりの、または所帯を持ったばかりの子どもに生活費を求める親のことをいう。親のすねかじりを表す「啃老族」から派生した新語である。「嫩」は「未熟者、若者」の意味で、ここでは社会人になったばかりの子どもをさす語となる。

1. 27 全漂族——Jターン族

生まれ故郷と卒業学校所在地以外の地方で就職した人。日本のJターン族に相当する。

1. 28 秒団族——団体ネットショッピング族

団体にネットショッピングをする人。人気商品はあっという間に売り切れてしまうから、秒単位で競り合うことがよくある。

1. 29 拼炒族——合同投資族

不動産価格の継続的上昇に期待をかけて仲間を組んで投資する人。「拼」は「寄せ集める」意味で、「炒」は「投機的売買」をさす。

1. 30 月光退休族——定年後貧困族

物価上昇により、毎月の年金を使い果たす定年後の老人をさしている。「月光族」は90年代後半から流行した表現で、主に就職してまもない若者をさす。この場合の「月光」は「月の光」という意味の熟語ではなく、名詞の「月」と動詞の「光」との組み合わせで、「毎月使い果たす」意味合いを表す。

1. 31 黒飛族——飛行機不法操縦族

無免許、無許可で私有小型飛行機を不法に操縦する富裕層の人。「黒」は無免許、無許可といった「不法な、反動的な」行為を意味する。

1. 32 花草族——花草族

人間関係をうまく築けない職場の新人をたとえて表現することばである。「花」は「水仙」、「草」はそれぞれ「サボテン、塀の上に生える草、狗尾草（えのころぐさ）、オジギソウ」をさす。水仙は花ことばが「うぬぼれ、自己愛、エゴイズム」であり、サボテンはとげを持つ、塀の上の草は風に吹かれて傾く、狗尾草は人の機嫌ばかり取る、オジギソウは上司を怖がる、こ

これらの草花の特徴を巧みに利用して新人を揶揄する。

1. 33 閉関族——受験引きこもり族

大学において期末試験に備えるため外出しない、娯楽活動に参加しない、時には徹夜して勉強する学生。「閉関」は「関所を閉じる」意、「受験勉強に集中する」ことを表す言葉で、「受験引きこもり族」と試訳する。

1. 34 錨族——錨族

米国で生まれた不法移民の子ども。親が漂泊した船の「錨」のように米国に不法滞在することからこのように呼ばれる。実際に中国では、子どもの米国籍を取るために観光査証で米国にわたりそこで子どもを産むいわゆる「観光妊婦」の問題が注目されている。「錨族」は主にこのような「観光妊婦」が生む子どものことをさしている。

1. 35 淘婚族——結婚用品ネットショッピング族

ネットショッピングで結婚用品を揃える若者。「淘」はアジア最大規模を誇るネットショッピングサイト「淘宝网」をさす。同時に数多くのものから気に入りの商品を選ぶといった意味合いもある。また、「淘」は「逃」と同音であるため、莫大な費用がかかる結婚から逃れる自嘲的なニュアンスも含まれると思われる。大陸に限らず、台湾においても「淘宝网」を通じて「嫁入り道具」を用意する若いカップルが増えてきたという。

1. 36 擰蓋族——キャップねじあけ族

ストレス発散のためにスーパーでペットボトルのキャップを勝手に開けて中の飲み物を少し飲んでまた蓋をして陳列棚に戻す人。「擰」は「ねじあける」意。同様の人をさす2009年の新語「捏捏族」(スーパーの商品を握りつぶす人)がある。

1. 37 恐検族——健診恐怖族

多様な理由で健康診断を恐れる人。多忙で健康診断を受ける時間がない人、仕事のストレスがたまり健康に自信がなく、診断で健康上の問題が指摘されたら対応できそうにない人などがこのグループにあたる。

1. 38 淘港族——香港ショッピング族

香港で買い物をする中国大陆の人。大陸での物価上昇と為替レートで香港ドル安のため、香港に隣接する広州や深圳、珠海から多くの市民が香港を買い物に訪れる。

1. 39 偽婚族——結婚ぶる族

独身なのに既婚者のように振舞う人。結婚後の不自由さと責任を嫌い、独身生活を思う存分に楽しむ若い男女のことをさす。「偽」は同音だが声調が異なる「未」をもじったものと考えられる。

2. 2011年の「～族」新語 30語

2. 1 恐聚族——集い恐怖族

同窓会などの集いへの参加に抵抗感のある人。近年は同窓会や旧知旧友との集いの場で互いに財産や地位を見せびらかし合う傾向にあるため、その雰囲気または「出世」せずに「劣等感」があるなどの心理から、参加を遠慮する人が増えている。

2. 2 BMW族——BMW族

「BMW」は自動車のブランドをもじったもので、この場合は英語の「Bus」、「Metro」、「Walk」の頭文字からなる新語で、それらの交通手段を通勤や外出の時によく使う人のことをさしている。地下鉄のない都市では、「BMW」はそれぞれ「Bus」、「Motobike」、「Walk」をさす。最初は自家用車の保有が無理なホワイトカラーによる自嘲のニュアンスが強かったが、その後は、このような交通手段が健康にいいだけでなく環境にもやさしいと共鳴する人が増え、この新語は「市民権」を得たのである。

2. 3 円族——円族

「円」は日本の貨幣単位であり、また形がパソコンのマウスに似ている。そのため、「円族」はマウスと金銭を使って、自宅でネットサーフィンやショッピングを楽しむ人をさしている。この場合、「円」は「日本円」から意味解釈が拡大され、一般の貨幣をさすようになり、文字と記号の両方の役割を持つ。

2. 4 背黒族——濡れ衣族

他人の代わりに批判や罪を受けることによって利益を上げるのを職業とする人。「背」は動詞の「背負う」、「黒」は「黒鍋」の略で、「無実の罪、濡れ衣」を表す。日本語で「濡れ衣族」と訳してみる。

2. 5 烏魂族——無気力族

高学歴だが、ストレスによる睡眠不足のため、職場では元気がなく、仕事上の過失を犯しがちな人。「烏」は「無」と声調が異なるが、同音であるため、「烏魂」は「魂が抜けている」、つまり気力のない様を表す。

2. 6 蜂族——蜂族

職場で蜂のように働き、精神的「糧」を生産する、主に出版、メディア、広告、画像処理などの産業に従事するホワイトカラーのことをさしている。莫臥児の小説『女蜂』に初出した新語である。

2. 7 退塩族——塩返し族

東日本大震災に伴う原発事故が発生してから、海塩の生産に影響を及ぼしかねないデマと「ヨードが含まれる塩を食べると放射能を防げる」といった誤った報道に惑わされ、大勢の民衆が大量に食塩を買い占めた。それが誤った報道だと分り、買っていた食塩を販売店に返そう

とした人。

2. 8 隠離族——離婚隠し族

離婚した事実を隠した人。インテリ階層の女性が圧倒的に多い。

2. 9 水母族——水母族

ニセの学歴証書や履歴書、資格証書を提出して就職活動に参加する人。水母は95%以上が水分であるとされ、また、中国語で「水分」は「水増し」の意味を持つことから、就職活動が有利になるように「水増し」のニセ書類を提出する人にたとえられるようになった。

2. 10 攢貝族——互助族

異なる国や地域にいる人たちが互いに欲しがる商品を購入して郵送する。このような方法であれば、より経済的に欲しがる商品を手に入れることができるという。「攢」は「寄せ集める」、「貝」は「寶貝」の略で、「宝もの」を表す。「攢貝族」は欧米を風靡したが、近年はネットショッピングの増加により中国にも広がりつつある。「互助族」と試訳する。

2. 11 恐会族——会議恐怖族

会議が多くて、その出席に抵抗する人。『中国青年報』の調査によれば、53.6%の人が日常の仕事の中で会議が多すぎることを指摘したとの結果が出ている。

2. 12 飆薪族——高給要求族

就職活動で求人企業に対し、高給を要求する求職者。「飆」はもともと「荒れ狂う暴風」の意味だが、この場合は転じて「程度の甚だしい」ことをいう。「薪」は「給料」である。「飆薪」は常識で考えられないような高給を求職の際にいきなり要求することをいう。

2. 13 打烊族——閉店前買い物族

スーパーなどでの閉店前のセールを狙って買い物をする客。「打烊」は動詞熟語で、「閉店する」という意味である。

2. 14 孤族——孤族

主に未婚や離婚または配偶者を失った一人暮らしの中老年の人をさしている。日本語にも同様の新語が2010年末から頻繁に使われるようになった。日本語からの影響によるものと考えられる。

2. 15 河狸族——ビーバー族

ネット情報を最大限に利用してショッピングをする人。「河狸」は「ビーバー」のことで、木などでダムを造り環境の改善に長ける動物である。情報資源をうまく利用して賢くショッピングする人はビーバーと共通している点があることからこのように呼ばれるようになった。また、「河狸」は発音が「合理」に近いこともあり、「合理族」とも呼ばれる。

2. 16 閃辞族——早期離職族

1か月足らずで仕事を辞めようとするまたは辞めてしまう大卒者。「閃」は名詞としては

「稲妻」、動詞では「ひらめく、光る」意で、「素早く」何かをする様を表す。

2. 17 考拉族——コアラ族

週末や祝祭日などの休みの日に自宅で長時間睡眠を取るサラリーマン。多くはストレスがたまりがちなホワイトカラーをさす。コアラは1日の睡眠時間が18時間を超えるということから、このように名付けられたのである。

2. 18 倖供族——供物失敬族

墓地の管理者や墓参り客を装ったりして墓前の供え物を盗む人。特に多くの人が墓参りする4月上旬の「清明節」に現れる。盗んだ供え物は食べたり花屋へ回したりして金を稼ぐ。

2. 19 自給族——自給族

自分で豆腐やもやし、ヨーグルトなど、手間暇のかかる作業をも辞さずに「自給自足」の生活を目指す人。

2. 20 財盲族——財テク知らず族

個人の財産運営に疎い人。「財盲」は「文盲」をもじった新語である。

2. 21 悔丁族——丁克後悔族

適齢を過ぎて子どもをつくろうとする「丁克族」。「丁克」は、英語「DINKS」の発音を漢字に当てた新語で、「子どもを持たない共働きの夫婦」という意味である。そのような「丁克族」が年を重ねるにつれ、経済的に豊かになり、親または伝統的な価値観からのプレッシャーも感じるようになり、いよいよ子どもをつくろうと踏み切った時に、出産の適齢を過ぎてしまうというジレンマに陥る中年の夫婦のことをいう。

2. 22 喜会族——会議好み族

会議に出席することによって、「重視されている優越感」を味わう人。「恐会族」の対義語である。

2. 23 浮遊族——浮遊族

浮遊写真の撮影に熱中する人。「浮遊写真」は、東京在住の写真家林ナツミが撮影して自分のブログ「よわよわカメラウーマン日記」に載せたのが始まりとなる。

2. 24 混族——その日暮らし族

厳しい現実を前に才能を発揮できそうもなくその日暮らしをする人。「混」は「ごまかす、お茶を濁す」意。「混族」は作家端木刑天の小説『一混五六年』に初出する。

2. 25 反潮族——反潮族

自らのライフスタイルを貫き時代の流行にあえて反した振る舞いをする人。「反潮族」は、自動車のかわりに自転車を好み、メールより手紙をよく書き、電子ブックを買わずもっぱら紙の本を読むなど、今の時代ではあって当然と思われるようなことに興味を持たない。

2. 26 替会族——会議代理族

上司の代理として各種の会議に出席する人。

2. 27 電繭族——バーチャル空間閉じこもり族

自宅でネットサーフィンやショッピングを楽しんだりツイッターで友人と交流をしたりする人。「電脳」に編まれた「繭」に閉じこもっているかのようなことから、このように呼ばれる。「孤立しているが孤独ではない」というのが「電繭族」の主張である。

2. 28 媚皮族——中高年元気いっぱい族

五六十歳だが、何事にも精力的に取り組む中高年の人。「媚皮」は英語「MAPPIE」の音訳語。「MAPPIE」はそれぞれ英語の「mature」(成熟)、「affluent」(裕福)、「pioneering」(開拓)の頭文字からできている。

2. 29 未富先奢族——未富先奢族

経済的に余裕はないがブランド品に目がない就職してまもない若者をさしている。

2. 30 装装族——ぶってる族

見栄えまたは自己満足のために、そうではないがそれらしく振舞う人。

IV 「～族」新語の形態的・意味的特徴について

以上の考察を通じて次のようないくつかの特徴が明らかになる。

2音節語の増加が2010～2011年の新語の特徴の一つである。2006年から2009年にかけての『中国語生活状況報告』の調査結果によれば、2音節の「～族」新語が1語しか確認できていない。2010年からの2年で8語に増え、「～族」新語全体の11.5%を占めるようになる。中には直接日本語から導入されたと考えられる「孤族」という新語も確認されている。中国語語彙は約8割が2音節語であるため、接尾辞としての役割の「～族」を加えると、3音節語になる。実際はこうした3音節語が調査年度を問わず圧倒的に数多く確認されている。「～族」を含む2音節語の増加は、造語成分における「～族」の接尾辞としての役割が弱まり、熟語としての性質が突出してきたものと考えられる。換言すれば、「～族」新語の中国語における定着度が高まりつつあることを意味する。アルファベットによる新語が1語あり、また英語の音訳語による「媚皮族」も確認され、中国語におけるアルファベット語彙または英語に由来する外来語の導入が継続しており、国際的言語干渉により中国語が変容しつつあることを物語る。

また、疊語も前回の考察の10語に続き3語が見られる。中国語においては、疊語は基本的にオノマトペや名付けの愛称として多用され、口語的性質が強いと見られる。新語に出現する疊語はその作り手が民衆であり、新たな物事に対し親しみ、時には揶揄のニュアンスをこめて名付ける造語法

が一般化しているということになる。

造語成分から見れば、動目構造と名詞構造を合わせると6割を超える。動目構造の場合は、目的語が表す物事を行う人たちのことをさしていい、「動詞中心主義」[『]の中国語において最も安定した表現となる。名詞構造は比喩表現が多用され、社会に新たに現れた階層を直接に名詞の意味するものにたとえる。この場合、「海豚」(いるか)、「鼠」(ネズミ)、「蜂」(ハチ)、「水母」(クラゲ)、「考拉」(コアラ)、「河狸」(ビーバー)のように動物によくたとえてというのが名詞構造の新語の特徴と言えよう。

一方、意味的特徴を見てみると、主として次のような三つの社会現象が浮き彫りにされた。

一つ目は、若い世代の結婚事情である。「婚」を含む新語は前回の調査の6語に次ぐ4語、さらに「婚」が入っていないが同じように婚姻事情を反映する「隠離族」(離婚経歴を隠した人)を加えると、全体の約7割を占めることになる。一人っ子政策の下で成長してきた世代の婚姻が多様な事情に絡み幅広く注目されている証しである。これに関してはこれまでの調査結果と合致しており、「婚」が長期的に次々と新語を誕生させた造語力の高いコアの文字の一つであるとともに、新語誕生に一定期間にわたる連続性及び波及性があることもこれで明らかになる。

二つ目は、中国社会の高齢化が進むことを直接反映する新語が、2006～09年の4年間にわたる前回調査では1語であったのに対し、2010～11年のわずか2年間で4語に増えた。「啃嫩族」(子ども依存族)、「月光退休族」(定年後貧困族)、「孤族」(孤族)、「媚皮族」(中高年元気いっぱい族)がその用語である。高齢者の経済的困窮や孤独を反映する新語が存在する一方、「媚皮族」のように「我が老後」を存分に楽しむ人もいるというのが実情であろう。

三つ目は、物価上昇の社会への衝撃を直接的・間接的に表現する新語が多数確認されたことである。「海囤族」(イルカ族、買い溜め)、「壳折族」(割引券売買族)、「月光退休族」(定年後貧困族)、「淘港族」(香港ショッピング族)、「打烊族」(閉店前買い物族)などがその典型的な用例である。これは2006～09年の「～族」新語に見られないものであり、この期間に不動産価格のみならず日常用品の物価もうなぎ上りに上昇したことを反映している。

V 日本語における「～族」新語との比較

中国語で見られる「～族」による造語法は日本語の影響が大きいことについて前回調査で指摘したが、直接的に日本社会または日本語の影響により派生した「～族」新語も確認されている。ここでは特に意味的な異同について分析してみたい。なお、学術用語として、「動植物+族」という使い方があがるが、ここでの考察の対象としない。

まず、日本社会の影響を受けて日本語から直接取り入れた新語は「孤族」である。ネット辞書

「コトバンク」^{iv}「デジタル大辞泉」の解釈によれば、「孤族」は「世間との接触もなく身内とのつながりも切れて、ただ一人で暮らす人をいう」となる。さらに「平成22年12月末、朝日新聞の特集記事での造語」と特記する。中国において、日本社会と同じように高齢化の道を歩むことになるというものはもはや避けられないものとなり、またこのような事態が予測以上に進んできている。「孤族」はそうした背景があって日本語から導入されたと考えられる。

「月光族」という、「月光退休族」に似た用語も日本語に存在している。『現代「死語」ノート』(岩波新書 1997)によれば、1956年に「太陽族」から派生した造語で、「海岸を夜ゴソゴソしている連中」を意味するという^v。「太陽族」ほど頻繁に使われることはなかったと見られる。中国語の「月光族」と、意味・構造上に大きく異なる。日本語の場合は、「月光」は名詞で、「月の光」という意味であるのに対し、中国語の場合は、名詞「月」と動詞「光」からなる修飾構造とされる。意味は「月夜の下でゴソゴソしている人」である日本語に対し、中国語では「毎月(給料を)使いはたす」意となる。

「コアラ族」は日本において、ゲームの中の登場人物として、または「コアラのぬいぐるみを愛用する人」といった意味合いで使われている。これは中国語の新語と関係がないものと考えられる。

「蜂族」は日本にも存在している^{vi}。また「ミツバチ族」ともいう。夏の北海道をオートバイで走りまわり所々でテントを張ってキャンプする人のことをいう。中国語の「蜂族」とは形態的に一致しているが、意味が異なり、両者の間に関連性は認められないと思われる。但し、蜂のように所々走り回るという意味では両者の着眼点が一致している。

「イルカ族」は日本でゲームの登場「人物」として使われることがあるが、一般的な用法ではなく、派生的な意味合いを表すものでもない。

「クラゲ族」は日本において、「ティアードスカートを穿く女性のこと」をいう。「歩くとスカートの段々がフワフワしている」ことから名付けられたとのことである^{vii}。中国語新語との関連性はないと見られる。

「浮遊族」は日本での意味が多岐にわたる。「浮遊写真」が日本で誕生した合成語なため、その写真をよく撮影する愛好家を「浮遊族」と呼ぶ。中国語の新語は日本との関連性があると考えられる。但し、「世俗の外に超然としてあそぶこと。行先を決めずにあちこちとあそび歩くこと」(広辞苑)を意味する用法は中国語にはない。日本では、「浮かれた顔をする人」または社会に居場所がなく浮浪する人を「浮遊族」と称することがある。

VI おわりに

前述のとおり、「～族」新語は中国語の一構成要素として定着しつつあり、中国の世相を大いに

反映する存在となっている。それらの新語に対する共時的な考察を通じて中国語の変容のみならず中国の文化社会に対する理解も深まると考えられる。また、日本語より直接導入された新語も確認され、現代日本語と中国語における言語干渉の一端が窺える。ネットを通じて瞬時に国境を越えて情報交換が行える情報化時代における言語のグローバルの変容に継続的に注目していきたい。

【注】

- i 東日本国際大学研究紀要 第19巻 第1号 2014年3月
- ii 国家語言資源観測と研究センター編集『中国語言生活状況報告2010 2011』商務印書館
本稿の基本資料として使用する『中国語言生活状況報告』は、2006年から2009年までは当該年次の言語調査の内容を報告するものと定められているが、2010年より編集方針が変更し、よりの確に言語状況を把握するために、当該年次の言語調査の内容を翌年に報告・出版するということになった。よって、『中国語言生活状況報告』の2010年版は出版されず、2010年の言語調査の内容は『中国語言生活状況報告2011』で報告されることとなった。
- iii 相原茂等著『Whyにこたえるはじめての中国語の文法書』同学社 1996年
- iv <https://kotobank.jp/word/>
- v 小林信彦『現代「死語」ノート』岩波書店 1997年
- vi <http://homepage2.nifty.com/sato-tawagoto/hatizoku/hatizoku.htm>
- vii <http://tellus-gi.jp/blog/2011/04/post-4c57.html>

【参考文献】

- 1. 国家語言資源観測と研究センター編集『中国語言生活状況報告2010 2011』商務印書館
- 2. 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部編『日本国語大辞典』第二版 小学館 2001年
- 3. 北京商務印書館・小学館共同編集『中日辞典』小学館 1999年
- 4. 小林信彦『現代「死語」ノート』岩波書店 1997年
- 5. 中国社会科学院語言研究所詞典編集室編集『現代漢語詞典』商務印書館 1996
- 6. 互動百科 <http://www.baik.com/>
- 7. 百度百科 <http://baike.baidu.com/view/1.htm>